



平成27年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月13日

上場会社名 株式会社ディー・ディー・エス 上場取引所 東
 コード番号 3782 URL http://www.dds.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三吉野 健滋
 問合せ先責任者 (役職名) 管理担当取締役 (氏名) 貞方 渉 TEL 052-955-5720
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第3四半期の連結業績(平成27年1月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第3四半期	397	△17.3	△468	—	△426	—	△403	—
26年12月期第3四半期	481	15.0	△207	—	△148	—	△56	—

(注) 包括利益 27年12月期第3四半期 △374百万円(—%) 26年12月期第3四半期 △121百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第3四半期	△11.58	—
26年12月期第3四半期	△1.70	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年12月期第3四半期	2,034	1,504	66.9	37.94
26年12月期	2,248	1,701	69.7	46.52

(参考) 自己資本 27年12月期第3四半期 1,360百万円 26年12月期 1,566百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年12月期	—	0.00	—	—	—
27年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成27年12月期の連結業績予想(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	805	31.8	△452	—	△388	—	△366	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動): 無
新規 一社 (社名) -, 除外 一社 (社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用: 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年12月期3Q	35,859,300株	26年12月期	33,675,300株
② 期末自己株式数	27年12月期3Q	一株	26年12月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年12月期3Q	34,752,596株	26年12月期3Q	33,103,944株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想は、本業績予想作成時点において入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれるため、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

(業績)

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・賃金状況の改善を背景に個人消費、住宅投資、企業による設備投資等に持ち直しの動きが見られ、景気は緩やかな回復基調を続けている一方で、中国の景気減速懸念を端緒とした世界同時株安による海外経済の減速を背景に、先行きは不透明な状況となっております。

当社の主たる事業領域である情報セキュリティ業界におきましては、依然として情報漏えい事件・事故が日常的に発生しておりますが、特に「標的型サイバー攻撃」等による大規模な情報流出が社会問題化したことなどから、セキュリティへの社会的な関心度はますます高まっております。また、マイナンバー制度についても、TVやWEBなどに加え、週刊誌の記事や関連書籍などでも多数見られるようになり、一般的にもほぼ認知されつつある状況です。

このような状況から、セキュリティ向上に対する企業・自治体のニーズが本格的に高まっております。

さらには、国内で新規に発売されるほとんどのスマートフォンには生体認証機能が搭載されてきており、指紋認証は本人確認手段として本格的な普及期に入りつつあります。またPCにおいても、今年7月29日にマイクロソフト社から発売されたWindows10では、セキュリティ機能として生体認証が標準対応されており、生体認証が普及する土壌が整いつつあります。

このような事業環境のなか、バイオメトリクス事業におきましては、セキュリティ関連製品や情報通信機器を紹介する大規模展示会への出展、SI企業主催の各種セミナーへの参加や協賛等による販売促進活動を積極的に展開いたしました。また、9月にはマイクロソフト社製「Surface3」対応の指紋認証ユニット「UBF>Hello」を発売いたしました。

新規事業におきましては、昨年加入した非営利団体FIDO Allianceが策定した国際標準規格に関し、国内大手通信キャリアに採用され運用されているという状況に加え、前述のWindows10にもFIDO規格が実装されたことから、FIDO関連製品についての引き合いが増えており、活発に営業活動を行いました。

さらにはクレジットカード会社やネット決済事業者などと、指紋認証技術を利用してネットワーク上での本人確認サービスを行う認証局ビジネスの取り組みも進めてまいりました。

こうした活動の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は397百万円（前年同期比17.3%減）となりました。

損益面においては販売費及び一般管理費が前年度同期比で179百万円（34.2%）増加いたしました。主な要因ですが新規事業の本格稼働に伴う市場での認知度向上や啓蒙活動への積極的な投資の結果、主に広告宣伝費、人件費、旅費交通費、地代家賃などが増加すると同時に、FIDO関連の新製品開発により、外注費、開発費、支払報酬が増加いたしました。特にFIDO関連の新製品開発に伴う支払報酬および外注費が想定以上に増加したため、販売費及び一般管理費の増加分に占める新製品開発費用の割合が最も大きくなっております。

営業外損益においては、契約に基づく業績連動支払分としてシナプティクス社から交付された売上連動収益82百万円を営業外収益として、また、為替相場の変動により主に海外子会社貸付金について為替差損30百万円を営業外費用として計上しました。

これらの結果、営業損失468百万円（前年同期は営業損失207百万円）、経常損失426百万円（前年同期は経常損失148百万円）、四半期純損失403百万円（前年同期は四半期純損失56百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、主に研究開発投資に伴う現金及び預金の減少(177百万円)により157百万円の減少となりました。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、主に投資有価証券の売却(51百万円)を行ったことにより56百万円の減少となりました。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、主に賞与引当金の増加(19百万円)により、9百万円の増加となりました。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、主に長期未払金の支払(32百万円)により減少したことにより27百万円の減少となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ196百万円減少し、1,504百万円となりました。これは、主に当期純損失による利益剰余金の減少(403百万円)したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、平成27年10月23日に開示しました通期連結業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

＜継続企業の前提に関する重要な疑義を抱かせる事象または状況について＞

当社グループは、過去継続した営業損失及び当期純損失を計上してきており、当第3四半期連結累計期間においても依然として営業損失468百万円を計上していることから、収益性の向上について改善途上の段階であることに鑑み、前連結会計年度に引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が依然として存在しているものと判断しております。

当社グループでは、当該事象又は状況を早期に解消、改善すべく対応策に取り組んでおり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められません。

今後につきましても、収益性の向上を実現すべく、引き続き、以下の諸施策を実行して参ります。

①指紋認証を始めとしたバイオメトリクス分野におけるDDSブランドの認知度を高めるため、代理店主催の製品説明会への参加や大規模展示会への出展を前連結会計年度にも増して行います。また、PR会社との連携により、積極的なPR、広報活動を推進します。

②積極的に業務提携を推進し販路の開拓を進めてまいります。

③新規事業や新サービスを加速するため、研究開発力の向上を図り開発人員を強化する所存です。

④コンシューマー向けタブレット型PCやスマートフォン向け市場の開拓のためのアライアンスに引き続き精力的に取り組めます。また、産学連携を強化し国家プロジェクトや補助金事業に積極的にアプローチしていきます。

⑤FIDOアライアンスなどの業界団体からの情報収集および加盟企業との連携を始めとした海外事業の再構築により営業活動が軌道に乗るように、引き続き鋭意努力していく所存です。

⑥会社資産の効率的な活用のため、遊休資産の処分を進めてまいります。

⑦新製品の開発販売および新規事業立ち上げに関連する投資に必要な資金に充当するため、借入についても進めてまいります。

以上の施策が全て不調に終わった場合には、主に新規事業関連の投資を凍結し、経費を削減することにより対応いたします。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	357,464	179,941
受取手形及び売掛金	98,326	123,763
有価証券	107,041	—
商品及び製品	33,963	56,609
その他	99,121	177,701
流動資産合計	695,917	538,016
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	326,845	319,319
土地	678,483	712,946
その他	12,123	13,052
有形固定資産合計	1,017,453	1,045,318
無形固定資産		
その他	31,690	42,247
無形固定資産合計	31,690	42,247
投資その他の資産		
投資有価証券	388,313	336,773
その他	115,561	72,465
投資その他の資産合計	503,875	409,239
固定資産合計	1,553,019	1,496,805
資産合計	2,248,937	2,034,822

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,009	1,304
未払法人税等	9,301	3,185
賞与引当金	3,201	22,373
その他	93,657	97,246
流動負債合計	114,169	124,110
固定負債		
退職給付に係る負債	17,233	17,979
長期未払金	390,570	357,949
その他	25,371	29,952
固定負債合計	433,176	405,882
負債合計	547,346	529,992
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,785,375	2,869,536
資本剰余金	2,875,391	2,959,552
利益剰余金	△3,925,650	△4,329,589
株主資本合計	1,735,117	1,499,498
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	29,894	25,210
為替換算調整勘定	△198,326	△163,904
その他の包括利益累計額合計	△168,431	△138,693
新株予約権	134,905	144,024
純資産合計	1,701,591	1,504,829
負債純資産合計	2,248,937	2,034,822

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
売上高	481,053	397,987
売上原価	162,615	160,510
売上総利益	318,437	237,477
販売費及び一般管理費	525,945	705,632
営業損失(△)	△207,507	△468,155
営業外収益		
受取利息及び配当金	369	1,004
為替差益	36,313	—
契約に基づく売上連動収益	41,072	82,121
その他	166	1,120
営業外収益合計	77,921	84,246
営業外費用		
支払利息	4,496	—
為替差損	—	30,477
その他	14,237	12,197
営業外費用合計	18,734	42,675
経常損失(△)	△148,320	△426,584
特別利益		
投資有価証券売却益	138,396	9,229
投資有価証券清算益	—	15,244
特別利益合計	138,396	24,474
特別損失		
減損損失	44,535	—
その他	18	—
特別損失合計	44,554	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△54,477	△402,109
法人税、住民税及び事業税	1,829	1,829
法人税等合計	1,829	1,829
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△56,307	△403,939
四半期純損失(△)	△56,307	△403,939

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△56,307	△403,939
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△52,790	△4,683
為替換算調整勘定	△12,808	34,422
その他の包括利益合計	△65,599	29,738
四半期包括利益	△121,907	△374,201
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△121,907	△374,201
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成27年5月18日より平成27年5月22日までの間に断続的に、第5回新株予約権の行使による払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結会計期間において資本金84百万円、資本準備金が84百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,869百万円、資本準備金が2,959百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	バイオメ トリクス事業	不動産 関連	計		
売上高					
外部顧客への売上高	449,407	31,645	481,053	—	481,053
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	449,407	31,645	481,053	—	481,053
セグメント利益又は損失 (△)	106,493	4,317	110,810	△318,318	△207,507

(注) 1. 調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに
帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	バイオメ トリクス事業	不動産 関連	計		
売上高					
外部顧客への売上高	364,603	33,383	397,987	—	397,987
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	364,603	33,383	397,987	—	397,987
セグメント利益又は損失 (△)	△165,007	7,472	△157,535	△310,620	△468,155

(注) 1. 調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに
帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項
該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(多額な資金の借入)

当社は、平成27年11月13日開催の取締役会における資金調達に関する決議に基づき、250百万円を借入額の上限とする金銭消費貸借契約を締結し、そのうち平成27年11月13日付で以下の資金の借入を実行いたしました。

(1) 借入先の名称	株式会社アロートラストシステムズ
(2) 借入金額	100百万円
(3) 借入利率(年利)	1.5%
(4) 借入実行日	平成27年11月13日
(5) 返済期限	平成28年11月15日
(6) 資金用途	運転資金
(7) 担保等	無担保・無保証